

ゴードン11機能 × ヘンダーソン14項目 対応表

ヘンダーソン採用校の方も、この対応表を見れば本サイトのゴードンベースのコンテンツがそのまま使えます。観察すべき内容は同じです。並べ替えの参考にしてくださいね。

by ReKangoのリカ

ゴードン11機能パターン	ヘンダーソン14項目 (対応)	メモ
1. 健康知覚-健康管理	1. 正常な呼吸 / 9. 環境の危険因子の回避	健康管理行動全般。安全への意識を含む
2. 栄養-代謝	2. 飲食 / 8. 清潔の保持	食事・水分・皮膚状態。代謝に関する観察
3. 排泄	3. 排泄	ほぼ1対1対応。最も対応が明確
4. 活動-運動	4. 身体の位置・移動 / 1. 正常な呼吸	ADL・運動耐性・呼吸循環機能
5. 睡眠-休息	5. 睡眠と休息	ほぼ1対1対応
6. 認知-知覚	10. 他者とのコミュニケーション	意識・感覚・痛みは横断的
7. 自己知覚-自己概念	10. コミュニケーション / 11. 信仰	ボディイメージ・自尊感情
8. 役割-関係	10. コミュニケーション / 12. 達成感	家族・社会的役割・職業
9. セクシュアリティ-生殖	(明示的項目なし)	ヘンダーソンに独立項目なし、注意
10. コーピング	9. 環境の危険因子の回避 / 12. 達成感	精神面の安全に含まれる
11. 価値-信念	11. 信仰 / 6. 衣服の選択	価値観・宗教・文化的背景

ヘンダーソン14項目 一覧

- 1. 正常に呼吸する
- 2. 適切に飲食する
- 3. あらゆる排泄経路から排泄する
- 4. 身体の位置を動かし、よい姿勢を保持する
- 5. 睡眠と休息をとる
- 6. 適切な衣類を選び、着脱する
- 7. 体温を生理的範囲内に維持する
- 8. 身体を清潔に保ち、身だしなみを整え、皮膚を保護する
- 9. 環境のさまざまな危険因子を避け、また他者を傷害しない
- 10. 自分の感情、欲求、恐怖、気分を表現して他者とコミュニケーションをもつ
- 11. 自分の信仰に従って礼拝する
- 12. 達成感をもたらすような仕事をする
- 13. 遊び、レクリエーションに参加する
- 14. 正常な発達および健康を導くような学習をし、発見をし、好奇心を満足させる

■ 2つのモデルの使い分け方

- ・ゴードン11機能パターンは「情報を集める枠組み」として実用的です。各パターンが独立しているので、漏れなく情報収集できます。
- ・ヘンダーソン14項目は「人間の基本的ニード」をベースにしているので、患者さんの全体像をとらえる視点として優れています。
- ・実習中は学校の指定モデルに合わせるのが基本ですが、情報収集そのものはゴードンの枠で進め、記録時にヘンダーソン14項目に並べ替える方法も実用的です。
- ・NANDA-I 看護診断ラベルは、どちらのモデルでも組み合わせて使えます。